

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	249	<p>利用者の重度化により散歩すらままならない状態であった。ひだまり通信を通じて付き添いボランティアを募集するなど働きかけてみたが、結果がでていない。</p> <p>施設の中で生活が完結することが多く、課題だと感じている。また、一番身近な併設施設との交流が図れていないことも問題だと感じている。</p>	<p>理念の中の「であいをだいに」の実践に努めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・併設施設鹿島荘の行事の日程を把握して、一緒に参加できるものには参加させてもらう中で交流を図る。 ・時期的なものはあるが、外での体操を行い、その足で散歩を行い近隣との交流を図る。 ・買物デーを月2回から毎週に増やしていく。 ・月に1回家族へのお便りを出し、一緒に行事を楽しむ機会を増やしていく。 ・ひだまり通信でボランティアをお願いしていく。 ・温泉保養など外出の機会を提供していく。 ・墓参りなど家族に協力をお願いしていきたいところへ行けるように援助していく。 	12ヶ月
2	36	<p>苦情の発生において職員の言葉に対してのものがほとんどを占める。発生するたびに職員会で取り上げたり、緊急会議を開いて対応しているが改善がされない。職員同士で気楽に指摘しあえる環境であればよいが、この部分については言う側も言われる側も、職員の人格そのものに触れるような気がして指摘しにくいのが現状であり課題である。</p>	<p>理念の中の「ひとりひとりを尊重し」の実践に努めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の基本、理念の基本に立ち返りそのケアが「職員の都合」なのか「利用者のため」なのかを常に問い続け、利用者の権利擁護の視点から指摘しあえる環境を作っていく。 ・自分の発する言葉やトーン、口調を常に意識して、周囲が不快になる言葉遣いはしない。 ・ゆとりをもった「待てる介護」を心がける。 ・もう一度認知症という病気を知り、それを持つ人の内面を慮れるような一人の人間として成長していく。 ・利用者と職員が「寄り合って暮らしていく場」であるが、主人公は利用者であり、職員はその生活を暮らしやすいように設えるべきであるという観点で日々臨めるようにしていく。 ・朝の理念の復唱を単なる復唱とせずその意味合いを胸に刻んで1日の仕事に臨んでいく。 	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成してください。